

平成31年度
 劇場・音楽堂等機能強化推進事業
 (地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
 成果報告書

団 体 名	ひろしまオペラ・音楽推進委員会	
施 設 名	アステールプラザ	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業	
内定額(総額)	21,754	(千円)
公 演 事 業	20,929	(千円)
人 材 養 成 事 業	825	(千円)
普 及 啓 発 事 業	0	(千円)

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p> <p>広島市は、中国・四国地方で最大の人口を有し、その中心都市として経済・文化の牽引役を担っており、最大の特徴は世界史上初めて核兵器（原子爆弾）で爆撃された都市として、世界的に高い知名度を有している。</p> <p>こうしたことから、都市像に「国際平和文化都市」を掲げ、世界の国・人との連帯による世界恒久平和の実現、豊かな文化と人間性を育む都市づくり、文化芸術をはじめとした様々な分野で活発な国際交流や国際協力を推進し、世界に開かれた活力ある都市を目指しており、当劇場はこれの実現を目指す文化芸術の中心的な役割を發揮する必要がある。</p> <p>当劇場では、『文化芸術を創造し、感動と希望をもたらす地域文化の拠点として、個性と魅力ある都市文化を形成する創造劇場』を目標に掲げ、「賑わい」＜人々が集い、繋がる＞、「文化創造」＜文化・人材を育成・創出＞、「地域文化」＜地域に根差した取り組み＞を取り組み方針に、文化芸術の振興、地域文化の振興、地域の活性化、都市のシティセールス、地域の文化・生活・経済・教育等の発展を図り『個性と魅力ある都市文化の形成』を目指して事業を構成し、オペラ、演劇、バレエ、コンテンポラリーダンスのジャンルを取り上げ、当劇場において練習から公演までを行うプロデュース公演を中心に計画的に事業を組み立てている。</p> <p>助成を受けた公演事業では、特色ある事業として、また市の文化拠点として個性と創造性が十分に発揮できる「オペラ」制作に取り組み、一般的なクラシック作品と、世界最先端の芸術音楽を市民に提供する現代音楽のオペラ作品を実施した。また、人材育成事業では、アーティストや指導者等育成として、活動を担う市民のエネルギーと個性と創造性が十分に発揮できる条件と環境の整備の一つとしてオペラ合唱団の育成、次世代に向けた取り組みとして、将来のオペラ歌手やファンへのきっかけづくりとなるオペラワークショップを実施した。</p> <p>この事業により、地域に根差した魅力ある創造事業に取り組み、広島市の目指す都市づくりに貢献した。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p> <p>当劇場のプロデュース公演とこれに附随するワークショップ等では、国内で活躍するトップクラスの指導者を起用することから、広島市内在住者のみならず近隣都市からも多数の参加者があり、近隣都市圏を含めた文化発展の牽引役を担っている。また、豊かな文化が育まれる都市として高レベルの文化創造活動が行えることは、平和な世界に暮らしていることに喜びを感じることができる都市の証であることを発信している。</p> <p>特に現代音楽オペラ公演では、劇場の特色の一つである能舞台を活用し、広島市出身で世界的に活躍する作曲家である細川俊夫氏の代表作品を日本2回目として取り上げた。作品の持つストーリーとこれを描く音楽の両立を成立させ、より作品の本質的な魅力を描き出した新演出は、世界に通用するレベルであり、音楽関係者から高い注目を集めるなど、劇場から強く発信することができた。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

文化活動の場の提供や質の高い文化芸術の創造、これに親しむ機会の提供などにより豊かな文化環境を創出する。「国際平和文化都市」として平和の象徴という理念のもと、文化発信や交流を図り、文化の創造と発展に寄与する。このため、「賑わい」〈人々が集い、繋がる〉、「文化創造」〈文化・人材を育成・創出〉、「地域文化」〈地域に根差した取り組み〉を取り組み方針として、〈創る〉〈育てる〉〈観る〉〈支える〉をキーワードにそれぞれが互いに関わり、繋がる取り組みを行う。事業を通して①『広島で創られるオペラ公演や現代音楽等の公演を広島の「誇り」と思ってもらえること』 ②『オペラの創造活動により地域の音楽芸術活動と人材育成に貢献すること』 ③『優れた舞台芸術を広く周知し、多くの市民に伝えること』を目標とした。

助成対象事業においては、次のとおり目標を達成した。

■公演事業

<オペラ公演>

- ・ 演出家・指揮者・キャスト・スタッフが一体となって互いにに関わり合い、協力して作品を創り上げる取組は人材育成をはじめ、個性と魅力ある都市文化を形成する劇場・音楽堂としての機能を発揮するものであった。
- ・ 魅力あるオペラのまち広島を目指し、全国レベルの指導者やスタッフにより、市民が誇りに思えるレベルの高い公演を制作し提供することができた。

(公演の満足度：アンケート全体の 97.8%)

<現代音楽オペラ公演>

- ・ 世界的に活躍している地元広島市出身の細川俊夫を音楽監督に迎え、国内での2回目の上演を能舞台を活用した新演出により作品の本質に迫り描き出したことで、現代音楽にとられないオペラ作品として、個性的で魅力ある公演となり、他に類をみない広島独自の音楽芸術として創造・発信することができた。
- ・ 地元を含む一流のキャストによる細川氏の音楽を理解した圧巻のパフォーマンスにより、鑑賞した市民は現代音楽にとられずオペラへの関心と豊かな感性の醸成が図られ、文化芸術を通じた世界平和を希求する、文化都市ヒロシマの理念を果たした。

(現代音楽に興味を持った人数：アンケート全体の 86.3%、公演の満足度：アンケート全体の 95.5%)

■人材育成事業

<合唱団の運営・育成>

- ・ オペラ公演の専属合唱団では、優れた指導者からの高度なレベルでの指導を受け、オペラ公演や演奏会に出演し、地域に還元する芸術創造活動に貢献することができた。

(団員の満足度①：講師の指導内容 「満足」「やや満足」の割合がアンケート全体の 78.9%)

(団員の満足度②：継続した活動 「継続して合唱団に参加したい」の割合がアンケート全体の 100%)

<子どもオペラワークショップ>

- ・ 子どもオペラワークショップでは、優れた指導者とともに、地元オペラ歌手をサポート役として起用し、次世代を担う子どもに貴重な機会を提供することができ、将来の歌手や観客の育成に貢献することができた。

(参加者の満足度①：プログラムの内容 「楽しかった」の割合が全体の 93.9%)

(参加者の満足度②：「オペラに興味を持った」の割合がアンケート全体の 87.9%)

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

■公演事業

○事業期間について

・オペラ公演は、地域に根差した創造活動として、4月のオーディションから9月の公演まで半年間かけて取り組んだ。この期間、広報やチケット販売を計画に沿って行った他、キャストの個別練習、そして公演1か月程度前からは演出家と指揮者が広島へ滞在しての充実した稽古を行い、文化創造の拠点として地域に根差し、人材育成を図り、創造性の高い公演を創出できた。

・現代音楽オペラ公演は、施設の特性である能舞台を活用した個性ある創造活動として2月に開催した。国内で2回目という現代音楽作品であり、歌手は公演作品の作曲者との協議により選定し、1年以上前から個別練習を適宜行い、12月に指揮者による音楽稽古、1月中旬から演出家と指揮者が広島へ滞在して作品の本質に迫る充実した稽古を行い公演に臨んだ。現代音楽という馴染みのない公演のため、9月後半から広報を開始し、様々な音楽公演でチラシの挟み込みなどを行い、広島に新しいジャンルの音楽芸術を定着させることに貢献した。

○事業費について

・オペラ公演は、全般的に節約を図りながら予算執行した。収入については交付申請時に対し△543千円であったが、支出を節約して対応した。総入場者数は目標を8割の1,600人に設定し、1,599人とほぼ目標を達成した。主要スタッフが長期滞在して創造したレベルの高い公演となり適切な収支と考える。

・現代音楽事業は、概ね計画通りに予算執行した。鑑賞料金は、馴染みが薄く能舞台で大掛かりな装置のない舞台であることを考慮し、さらに国内2回目の公演で初めて鑑賞する方には両日鑑賞していただけることを期待し、割安感を持たせてS席4,500円A席3,000円の2種類を設定した。収入については交付申請時に対し229千円増額となり、入場者数も目標の700人に対し775人と大きく上回った。能舞台でのオペラという広島独自の取り組みはヒロシマの地から世界へ向けて発信力のあるものとして高い効果を得た収支と考える。

■人材養成事業

○事業期間について

・合唱団の育成は、年間を通して原則週1回の練習を行い、オペラ公演（現代音楽オペラ含む）への参加やクリスマスコンサートと年間を通じて有意義な活動を行った。

・子どもオペラワークショップは、夏休み期間に2日間、体験と発表のプログラムで実施し、体験型として充実した内容であった。

○事業費について

・優れた指導者を招いたオペラ専属合唱団の育成・運営は、レベルの高いオペラ公演へ貢献した。また、現代音楽オペラへの合唱参加は、難曲に取り組んだことで団員の能力を大きく向上させる経験となり、効果的な予算執行であった。

・子どもオペラワークショップは、経験豊かな指導者と地元オペラ歌手を複数名アシスタントに起用することで、参加した子どもたちに目配りが行き届き、参加者の満足度が高い内容であった。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

広島市の文化拠点として位置付けられるためには、文化を創造発展させ魅力的な個性を発揮する活動の「場」、そして市民文化の創造と発展の象徴のシンボルとして、市民の誇りとなる文化芸術の「創造活動」のそれぞれが効果的に行われる必要がある。

当劇場の設備は、大・中のホールの他に上演形式にとらわれずに使用できる多目的スタジオ、そして中四国で唯一のプロオーケストラである広島交響楽団の専用練習場ではあるが、使用されない時には室内楽の演奏会や市民オーケストラや合唱の練習などとしても利用できるオーケストラ等練習場といった上演会場を有するだけでなく、実演芸術の創造活動に欠かせない練習室や音楽室といった練習会場機能を併せ持ち、これらを最大限活用しての創造型事業を柱に取り組んでいる。

事業体系としては「音楽」「演劇」「ダンス」を柱にし、現代音楽やコンテンポラリーダンスなど新しい文化の創造にも挑戦し、広島の文化シンボルとして相応しい事業を展開した。取り組みにおける特徴として《創造》《育成》《提供》《普及》の4点に分類することができる。具体的には《創造》は優れた演出家等のスタッフによる高水準の「プロデュース公演」をオペラ、演劇、バレエ、コンテンポラリーダンスにおいて制作。《育成》は「研修事業」として、オペラ研修、演劇学校、バレエ・ダンスワークショップを開催。《提供》は演劇、ダンス、オペラ、クラシック音楽、伝統芸能等の公演を、共催も含めて多数の鑑賞機会を市民へ提供。《普及》は文化芸術の普及・啓発を行うため、オペラ出前コンサートやオペラコンサートを開催した。

これら事業において、助成を受けたオペラ公演では、3年間のモーツァルトシリーズ最終年としてモーツァルト作曲「魔笛」を制作・公演し、「ブッフア」「セリア」に続いて「ジングシュピール」と様々なジャンルを提供した。また、昨年度上演した「イドメネオ」は第16回三菱UFJ信託音楽賞「奨励賞」を受賞し、地域発信のオペラとして高い評価を受けた。

同じく助成を受けた現代音楽オペラ公演は、平成19年度から日本人作曲家として現在最も世界的に活躍している広島市出身の現代音楽作曲家、細川俊夫氏を音楽監督に迎えた小規模の演奏会を年2回程度のペースで開催しており、このシリーズの特別企画という位置づけでの取り組みである。「松風」は、作曲時にコンテンポラリーダンサーとの共同作業で創られ初演された作品で、その上演はオペラの常識を変えたと言われる程ダンス中心の観せる公演としての高い完成度を持ち、多くの観客を魅了した「動」の公演である。広島での公演は、当劇場の特徴である能舞台を活用した「静」で、脚本の持つ魅力とこれを受けての音楽表現というオペラの本質に迫り、ヨーロッパで生まれた「松風」が日本へ還ってきたと言える創造性の高い公演となった。

その他、プロデュースする公演は、演劇事業においては、劇作家協会の新人戯曲賞を受賞した地元の演劇人を戯曲・演出として起用しての創作作品の制作・公演。東京のバレエ団で活躍する指導者を招いての創作作品の制作・公演、他分野との積極的な交流を図っているダンサー平原慎太郎氏を中心にした創作作品の制作・公演を行い、いずれの公演も、指導者が広島へ滞在し劇場でじっくり制作する手法で、文化拠点としての機能を十分発揮した創造性の高い公演を発信した。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

当劇場での事業の取り組みは、オペラとクラシック・現代音楽においては、マスコミや行政、音楽関係者からなる委員会を組織し、事務局をアステールプラザに置いて運営しており、地域団体のニーズと要求に応じている。また、演劇やバレエ・ダンスにおいても、広島演劇協会や広島市バレエ協会といった団体との共催により実施しており、地域ニーズを踏まえた実演芸術の振興と地域文化の発展に寄与しているものとする。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

当劇場の運営に係る主な業務は、「使用許可」（諸室の貸出、受付、利用案内等）、「施設・設備の維持管理」（駐車場、施設・設備の保守、設備機器の運転操作、警備、清掃等）、「広報」（施設案内パンフレット作成、ホームページの運営等）、「ホール管理」（利用打合せ、舞台設備の操作・管理等）、「事業の実施」（オペラ、クラシック・現代音楽、演劇、バレエ、文化情報の収集等）と多岐にわたっている。

<人材面>

これらの業務を行うため、劇場運営の経験豊富な専門知識のある職員を適材適所に必要人数配置し、サービスの維持・向上を図り、12時間の開館時間内をローテーション体制で運営しているが、これを継続して安定的に遂行するため、職員の能力向上はもとより、職員一人ひとりの勤務意欲と能力を一層向上させるなど、人的資源を最大限活用していくシステム作りが必要なため、「接客能力の向上」、「管理運営能力の向上」、「舞台技術能力の向上」、「アートマネジメント能力の向上」といった視点を持って運営に当たることのできる人材の育成を目指している。また、より効果を高めるために職員が個々に自己目標を設定して自身の能力開発・向上を図り、管理者が職員の目標の達成状況を適切に評価し、適材適所の人事管理を行うことで、組織全体の業務能力とモチベーションの向上を図るよう取り組んでいる。

<財務面>

劇場運営に当たっては、財源の確保が重要課題である。このため、利用者のニーズを踏まえ、利用に関する情報の提供やニーズに即したサービスを行い、多くの方々に当劇場を地域の文化拠点施設として利用していただき、会場利用料や鑑賞料収入を確保し、安定した劇場運営と事業運営を行うため、次のサービスに取り組むなど収入の確保を図っている。

- ・ホール利用について、キャンセルが生じた場合は、ホームページでキャンセル情報を周知。
- ・ホールで、仕込み・リハーサル・本番と連続して利用しなければ公演が成立しない利用については、連続利用の優先予約制度を導入。
- ・大規模事業の優先利用の制度を導入し、大規模大会の誘致。
- ・ホールの空きを有効利用するため、2か月前など一定の期間を経過した場合は割引で提供。

<施設面>

劇場を安心・安全に提供することは管理者としての重要な使命であり、主に次のとおり取り組んでいる。

- ・条例や規則に沿って、全ての利用者へ平等で公平な利用を提供。
- ・節電、節水等省エネに努め、環境に優しい運営。
- ・老朽化に伴うトラブルの発生を未然に防ぐよう、専門業者や職員による点検等の実施。
- ・防火・防災に関するマニュアル整備、消防設備の点検、危機管理体制の構築、消防訓練の実施。
- ・個人情報の適正な管理や広島市暴力団排除条例等施設運営に必要な各種法令を遵守。

<ネットワーク>

オペラや演劇などの事業を通じて、地域の文化団体のみならず、他都市のオペラ団体や劇場と幅広いネットワークを構築している。今後の主な計画は、広島市の姉妹都市である韓国大邱広域市との芸術交流の充実である。

また、近隣施設と事業連携や運営協力など良好な相互関係を築き、地域の一員として社会的責任を担うなど適正な運営を行っている。